

《地域づくり構想（地域別構想）とは》

地域づくり構想は第6章の「まちづくりの方針（全体構想）」の考え方に基づき、コミュニティを感じることができる範囲の中で、今後20年間でそれぞれの地域の特徴や意向等を踏まえた形でまちづくりを展開するための計画です。

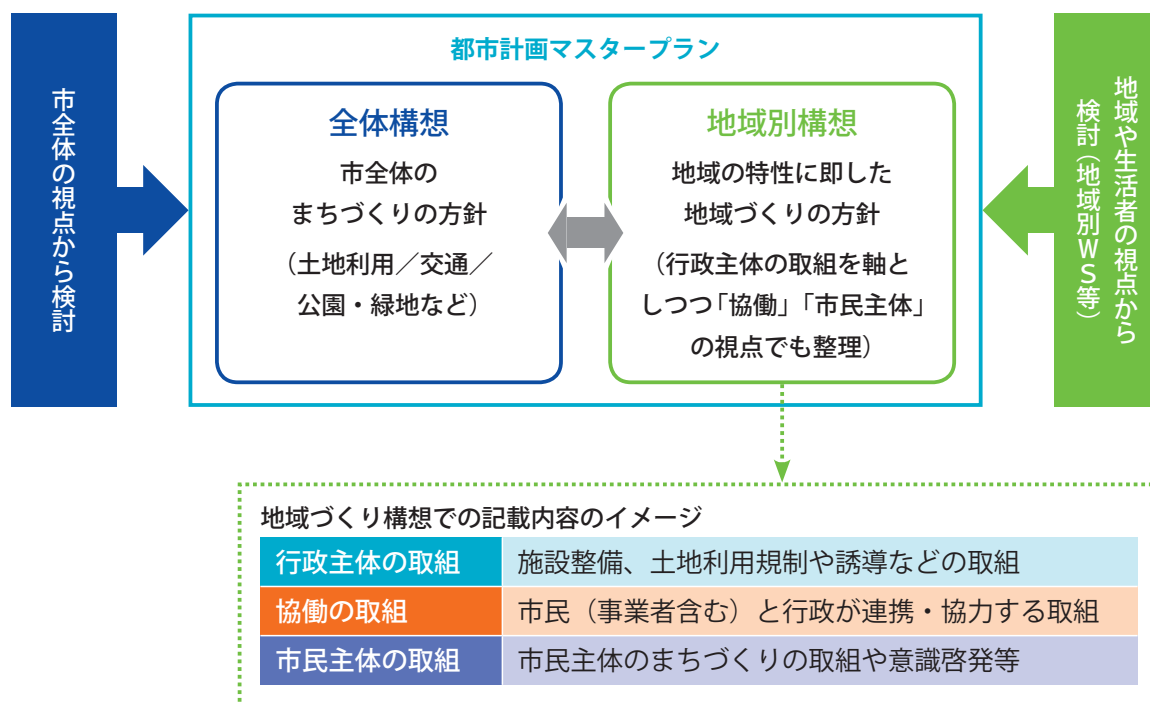
今回の計画策定にあたって、市民アンケートのほか各地域で地域別ワークショップを実施し、市民の生活実感に基づく具体的な地域課題やニーズ、目指したい暮らし像等の把握を行いました。

また、地域によっては、まちづくり協議会による地域のビジョンが作成されているところもあります。このビジョンでは都市計画に関わるだけでなく、子育てや高齢者支援など広い分野に関わる記載があります。

そこで今回の地域別構想は、地域別ワークショップの意向とともにビジョンに記載の都市計画に関する内容も踏まえて、各地域の資源や特徴、課題といった地域特性を整理し、地域住民が目指したい地域の将来像や地域づくりの方針や取組について記載しています。

とりわけ取組については、地域別ワークショップの意見を尊重し、行政が主体となって取り組むことを基軸に、市民またはまちづくり協議会が主体となって取り組むことや行政と市民が協働で取り組むことも記載し、「地域の協働まちづくり指針」となるように整理を行っています。

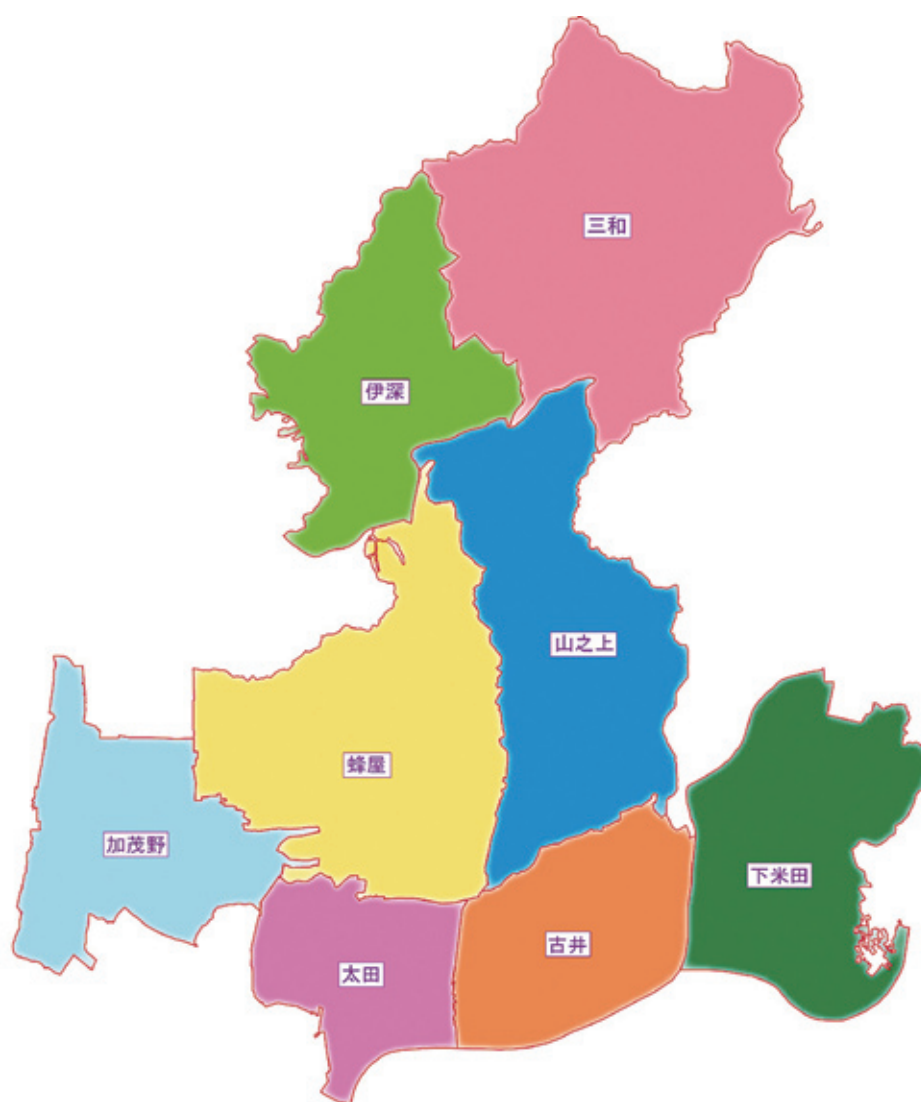
図15 全体構想と地域別構想の関係



《地域別構想の区分》

地域別構想の区分は、太田、古井、山之上、蜂屋、加茂野、伊深、三和、下米田の8地域とします。

図16 地域区分



1 太田地域

① 地域の概況

- 太田地域は市の南部に位置し、美濃太田駅を中心に都市機能が集約しているほか、中山道太田宿に代表される歴史的資源を有しているエリアです。
- 美濃太田駅周辺は既成市街地の更新を目指しているほか、公共施設整備が検討中であるなど今後、市のにぎわい創出の核となるエリアとして期待されます。
- 地域南にある中山道太田宿は中山道69次のうち江戸から数えて51番目の宿場町で、江戸時代の古いまちなみが残る本市を代表する観光地です。美濃加茂市景観計画における景観計画重点区域に指定されており、良好な景観形成に向けた規制・誘導や取組を進めています。
- また、地域には木曽川緑地ライン公園や前平公園等の公園・緑地が整備されています。市民主導型の夏と秋のお祭りである「おん祭MINOKAMO」の会場ともなっており、市民の交流拠点ともなっています。

図17 人口・世帯数の推移

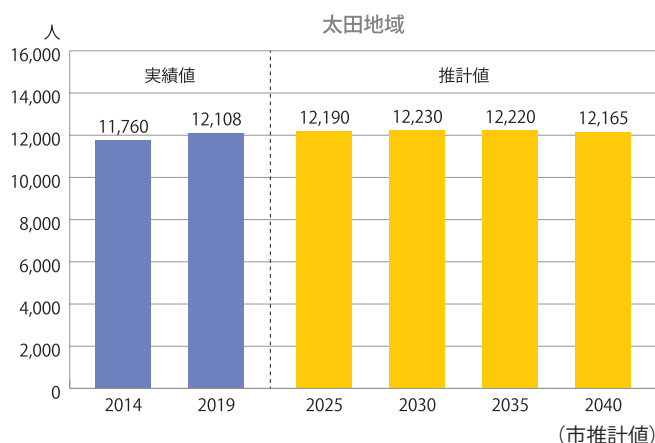
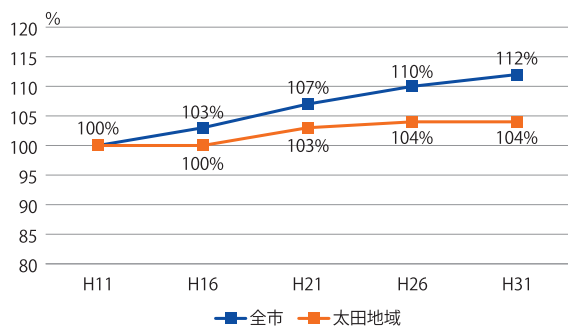
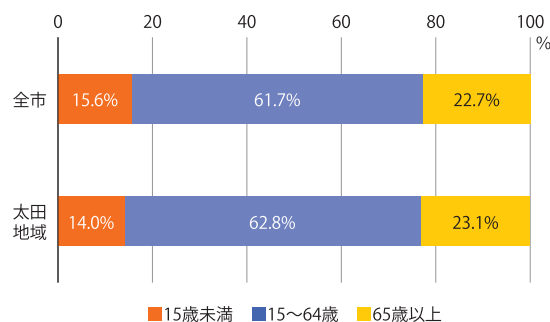


図18 人口の推移



(住民基本台帳 2019年(平成31年)4月1日現在)

図19 年齢別人口構成



(住民基本台帳 2019年(平成31年)2月末)

* 人口については日本人のみ

② 地域の課題

●美濃太田駅周辺のにぎわい創出が必要である

- 美濃太田駅周辺の特に駅南では、商業施設や事業所が集まっているものの、空家や空店舗等も増加しつつあり、全体的にはかつてのにぎわいが失われてきています。
- また、まちなかには子どもや高校生をはじめ若い世代が求める機能が乏しいことから、郊外や市外の商業施設に買物客等が流出しているという声もあります。
- 市民意識調査では、美濃太田駅北の幹線道路沿道の状況に対しては、「美濃太田駅南などの既存市街地を中心に開発等を誘導すべき」の回答が27.9%あり、市中心部におけるにぎわい創出に向けた意見も挙げられています。

●空地や空家、空店舗が増加している

- 地域内で空地や空家、空店舗等が増加しており、いわゆる都市のスポンジ化が進行しつつあります。
- 空家数は、美濃加茂市空家等対策計画によると187件となっており、市内では古井地域に次いで2番目に高い値となっており、このような状況が続くと地域コミュニティの維持にも悪影響を及ぼす可能性があります。

●観光・交流に資する受入体制が不足している

- 美濃太田駅は本市最大のターミナル駅であり、中山道太田宿に代表される観光資源があるものの、ソフト・ハード両面から観光・交流の受入体制が不足している感が否めません。
- 歩いて楽しめる空間形成やホスピタリティの向上等により、本市の玄関口にふさわしい地域づくりが求められます。

●水害に対しての不安がある

- 美濃太田駅南に広がる既成市街地では、木曽川及び加茂川の浸水想定区域に広く指定されており、市民も水害に対しての安全性に不安を抱いています。
- 市民意識調査でも「まちの安全性」に対しての満足度(満足+やや満足)の割合は26.6%であり、他の地域より低くなっています。また、重要度(重要+やや重要)の割合は69.8%で、他の地域より高くなっています。

③ 地域づくりの将来像

美濃太田駅を中心としたにぎわいと活力があふれる、ウォーカブルなまち

太田地域は、商業・業務機能、行政機能をはじめとする都市機能が集積した、市民生活の中心となる地域です。地域内にある美濃太田駅は、朝夕は多くの人が行き交い、本市最大の交通結節点となっています。また、地域南には歴史的なまちなみや風情を今に残す中山道太田宿があり、多くの観光客も訪れます。

一方、中心市街地においては空家や空店舗が目立ち、居住人口の減少や人の買物行動も郊外の商業施設に依存している傾向が見られ、都市のスポンジ化の状況がみられます。

現在、美濃太田駅周辺は公共施設の整備が検討されており、みんなが利用し集まる拠点としての期待とともに、市街地のにぎわい創出に寄与する機能となるべく検討が進められているところです。

そのため、太田地域では市街地の再整備や機能更新を図りつつ、美濃太田駅を中心としたにぎわいと活力があふれるウォーカブルなまち（誰もが歩いて回遊したくなるまち）を目指します。



④ 地域づくりの方針

① 便利でにぎわいある魅力的な中心市街地の形成

- 老朽化した既成市街地の再整備や都市機能の更新を図りながら、便利でにぎわいある魅力的な中心市街地の形成を図ります。

行政主体の取組	・ 既成市街地の再整備（市街地再開発事業等の検討を含む）や公共施設の整備など市の都市拠点にふさわしいまちなかリニューアルを進めます。 ・ 安全安心な歩行者環境や快適な公園整備などウォーカブルな空間整備を検討します。（逍遙プロムナード、大手町公園等） ・ 美濃太田駅周辺の観光・交流機能の充実・強化や景観形成などおもてなしの空間形成に向けた検討を進めます。
協働の取組	・ 商業者と連携しながら商店街活性化につながるイベント等の取組について検討します。（チャレンジショップや歩行者天国等）
市民主体の取組	・ 地域にある商店街を積極的に利用します。 ・ おもてなしを意識した行動に取り組みます。（店舗の軒先におけるにぎわいの演出や緑化等）

②美濃太田駅を起点とした暮らしやすいまちづくり

- ターミナル駅である美濃太田駅を起点に、まちなかのにぎわいや歴史的なまちなみを身近に感ながら暮らしやすいまちづくりを進めます。

行政主体の取組	・交通結節機能の充実・強化を図ります。(美濃太田駅の自由通路、駅前広場や駐輪場の整備の検討等) ・回遊性を促進する歩行者環境の整備等に取り組めます。 ・子育てしやすい都市機能の誘導や整備を図ります。(子育て支援機能(保育園等)等)
協働の取組	・家主と行政との連携による空店舗のマッチングサポート等の方策について検討します。
市民主体の取組	・駅周辺における空店舗等について、地域のにぎわいや交流拠点としての活用方策を考えます。

③歴史・文化や地域資源を活かした観光・交流の促進

- 中山道太田宿の歴史的な建物、古いたたずまいを感じさせるまちなみを保全するとともに、自然に恵まれた地域資源を活用することで、観光・交流の促進を図ります。

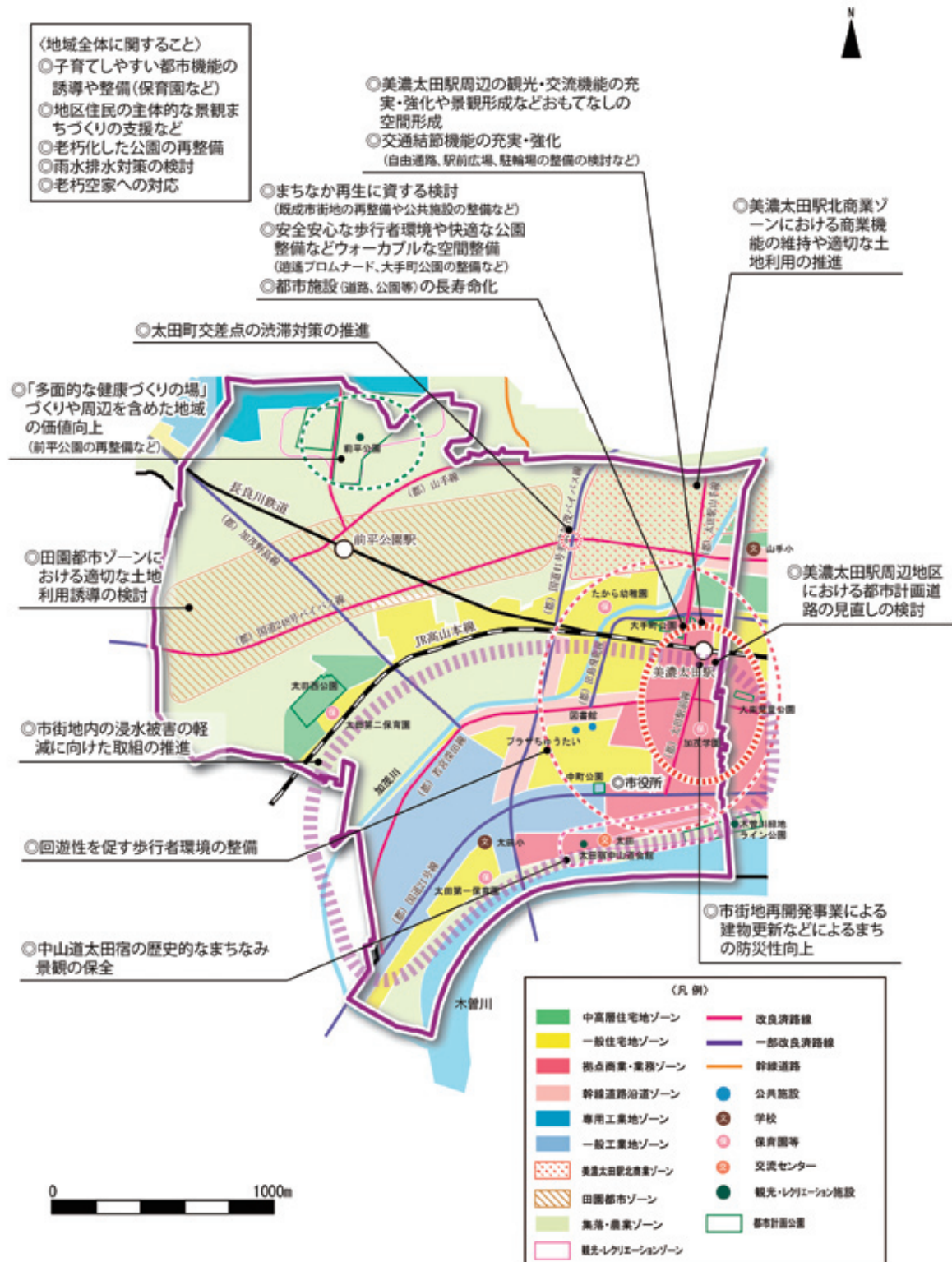
行政主体の取組	・中山道太田宿の歴史的なまちなみ景観の保全を図ります。 ・地区住民の主体的な景観まちづくりを支援し、中山道太田宿のまちなみを次世代に継承します。 ・公園施設のリニューアルを契機とした「多面的な健康づくりの場」づくりや周辺を含めた地域の価値向上に取り組めます。(前平公園の再整備や「ヤマザキマザック工作機械博物館」との連携等) ・インバウンドを意識した観光資源の活用・PRに取り組めます。
協働の取組	・地域の歴史・文化を周知、啓発する取組・イベント(歴史・文化の学習会、観光まちあるきに資するルート検討等)について検討します。
市民主体の取組	・市民一人ひとりが身近な歴史・文化を意識し、新築や建替えの際には周辺との調和に配慮した景観まちづくりに努めます。(景観計画の遵守)

④安全・安心な環境整備

- 老朽化した既成市街地における建物更新や、浸水被害対策等に取り組みながら、安全・安心に暮らすことができる環境整備に取り組めます。

行政主体の取組	・市街地再開発事業による建物更新等によるまちの防災性向上に向けた取組を検討します。 ・老朽化した道路、公園の長寿命化に向けた取組を進めます。 ・市街地内の浸水被害の軽減に向けた取組を進めます。(新丸山ダム建設の整備促進の要望、加茂川総合内水対策計画に基づく取組の推進等) ・老朽空家については、空家等対策計画に基づき、防災や防犯、地域コミュニティの観点から所有者への適正管理を促しつつ、良好な居住環境の形成に努めます。
協働の取組	・地域住民が互いに助け合う仕組を構築しながら地域全体の防災力の向上に向けた取組を検討します。(地区防災計画の作成等)
市民主体の取組	・市民一人ひとりが防災意識を高めます。

図20 太田地域の方針図



2 古井地域

① 地域の概況

- 古井地域は市の南部に位置し、高等学校や文化会館、東図書館、交流センター等の市民文化系施設及び社会教育系施設を多く有しているエリアです。古井駅、美濃川合駅の2駅が設置されており、とりわけ古井駅周辺(森山町)には人口が集中しています。
- 地域の外国人市民の割合は13.3% (2019年(令和元年)5月1日現在)となっており、全市平均(9.0%)より高く、市内で最も高くなっています。そのため、古井小学校では日本の学校で初めて入学する外国人児童生徒に対して、簡単な日本語やひらがな、カタカナ、学校生活等を教える「のぞみ教室」を開設しています。
- 地域には「お願いごとの神様」として知られている古井の天狗山があり、地域有数の観光地となっています。毎年4月には古井神社の祭礼が、森山商店街では毎年7月に夏祭りが行われ、にぎわいを呈しています。
- また、2018年(平成30年)にはレジャーとフィットネスをテーマとした、リバーポートパーク美濃加茂が完成し、地域住民のみならず、市内外の人が訪れる新たな観光スポットとなっています。

図21 人口の推移及び将来人口推計

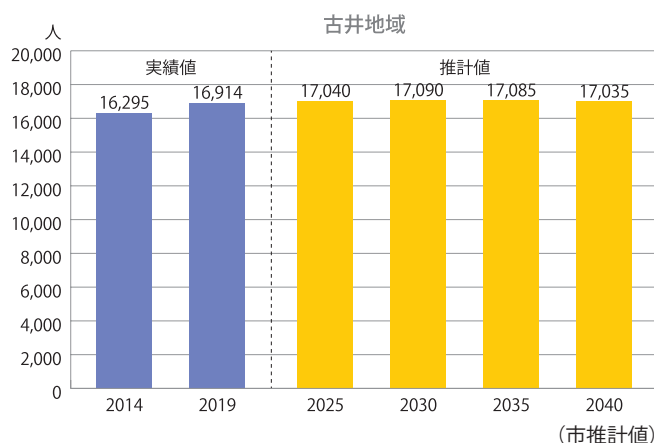


図22 人口の推移

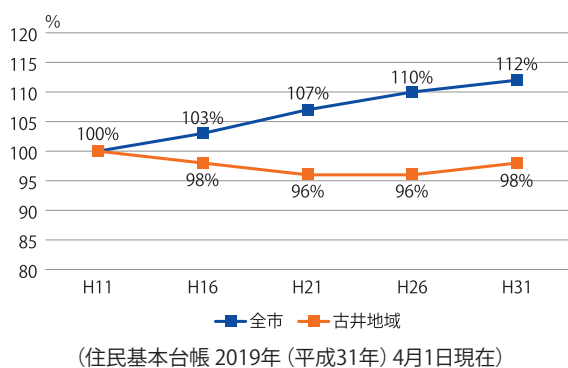
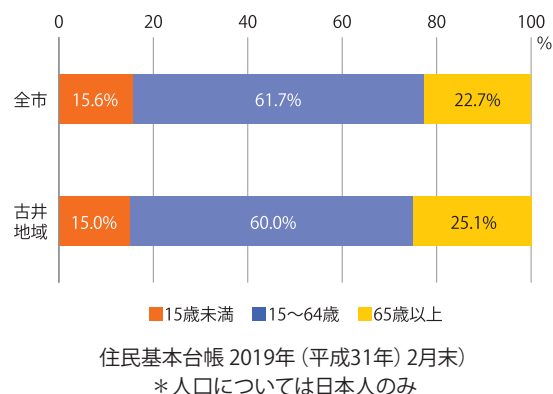


図23 年齢別人口構成





② 地域の課題

●空地や空家、空店舗の増加がみられる

- 地域の空家数は、美濃加茂市空家等対策計画によると217件となっており、市内で最も高い値となっています。
- 比較的人口が密集する地区での空家等が多くみられ、敷地が狭く駐車場がない空家等が多くあり、いわゆる都市のスポンジ化への対応が求められる状況がみられます。

●公共交通の利便性について不安がある

- 市民意向調査によると、「人口減少・少子高齢化に対してのまちづくり」について、「病院や商業施設等に行きやすいように鉄道駅や主要な施設がバスで結ばれた、移動の利便性が高いまちづくりを目指す」を選択した人が全体の57.3%を示しており、最も高い値を示しています。
- 現在、「バス利用のしやすさ」の「満足＋やや満足」の割合は15.4%と他地域に比べると高くなっているものの、引き続き利便性の高い公共交通ネットワークの整備に向けて検討する必要があります。

●文教地区としての先行きに不安がある

- 古井第一保育園と第二保育園は、旧耐震基準の建物であり老朽化が進んでいることから、蜂屋保育園との統合による古井保育園の整備を推進しているところです。
- 小中学校や、文化会館、東図書館、交流センター等の市民文化系施設及び社会教育系施設は旧耐震基準の建物もあり、耐震化の推進を図りつつ、更新の際には重複した施設機能の統合を検討する必要があります。

●地域コミュニティの低下がみられる

- 地域には外国人市民が多く居住しており、市民同士でごみ出しや騒音のトラブルをはじめとした摩擦があります。
- このような状況を背景に、自治会や子ども会の存続を懸念する声もあり、ひいては地域コミュニティの維持が困難になる可能性があります。
- 市民意向調査でも、地域で感じている問題・課題は「一人暮らしの高齢者が増えてきており、地域のつながりが低下していきっている」が最も高く(43.7%)なっています。

③ 地域づくりの将来像

「住(暮らし)」「商(買物)」「工(働く場)」「学(学ぶ)」が整った 文教交流のまち

古井地域は、市内にある3つの高校が立地しており、図書館等の文教施設も集積していることから本市の文教交流拠点に位置づけています。

古井駅北には低層住宅地(森山団地)や中高層住宅地、駅南には一般の住宅地が形成されています。県道沿いには大型商業施設が立地し地域住民だけでなく市民の買物の場となっています。さらに大型の工場も立地するなど地域住民の働く場所も備えた、まさに職住近接を体现している地域です。

一方、古井駅周辺は道路も狭く、基盤整備がやや遅れている印象があります。また、山手線沿線の用途地域外のまとまりのある農地が商業施設や住宅へ転用されている場所も散見されます。

これらの問題に適切に対応しながら、古井の特徴である「住(暮らし)」「商(買物)」「工(働く場)」「学(学ぶ)」の環境が整った、暮らしやすいまちを目指します。



④ 地域づくりの方針

①生活利便機能や教育・文化機能が整ったまちづくり

- 幹線道路沿道の商業施設をはじめとする生活利便機能を整えつつ、現在の教育機能や文化機能の集積を活かした文教交流拠点にふさわしいまちづくりを進めます。

行政主体の取組	・ 古井駅周辺へのにぎわい・集客施設の誘導を図ります。 ・ 古井保育園の整備を推進します。 ・ 古井第一保育園の跡地を活用した発達総合支援センターの整備(児童発達支援センター：カナリヤの家の拡張)を検討します。 ・ 上古井交流センターについて整備を検討します。
協働の取組	・ 古井駅でICカードが利用できるよう鉄道事業者と連携して取り組みます。
市民主体の取組	・ 地域にある商業施設をできるだけ利用します。

②古井駅周辺の交通環境の整備

- 鉄道駅（古井駅）があることの優位性を活かし、バスや自転車利用者の利便性の向上や道路環境の改善を図ります。

行政主体の取組	・駅前広場や駐輪場など古井駅周辺の整備を検討します。 ・古井駅周辺の市街地における道路環境の改善を検討します。（通学路の安全対策等） ・道路等の都市施設の長寿命化を図ります。
協働の取組	・市と行政で意見交換をしながら地域内の危険箇所の点検等を検討します。 ・企業や市民を交えたモビリティ・マネジメントのあり方について検討します。（公共交通利用促進）
市民主体の取組	・交通ルールを遵守し歩行者等の安全性を確保します。 ・あい愛バスを積極的に利用します。

③文教機能の集積を活かしたまちづくり

- 高校や図書館、子育て支援施設など多様な文教機能が集まっている古井地域の特徴を活かしたまちづくりを進めます。

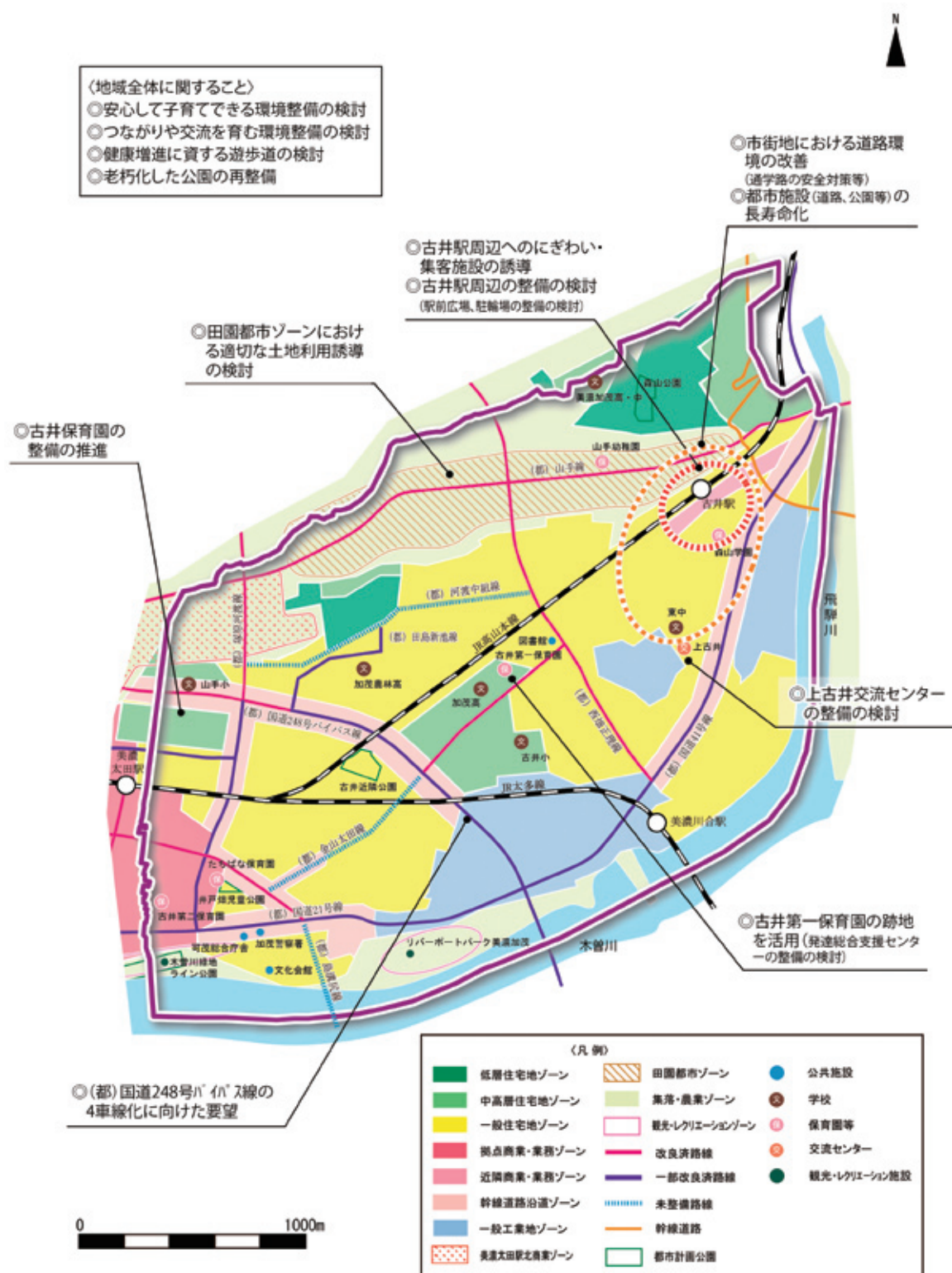
行政主体の取組	・安心して子育てできる環境整備について検討します。（空家を活用した子育て支援施設の誘導等）
協働の取組	・地域と高校が連携した「学び」の機会（場）の創出について検討します。 ・「文教」のイメージを打ち出した住環境づくりについて検討します。（地域住民主体のルールづくりの勉強会の開催等）
市民主体の取組	・緑化活動など緑豊かな空間づくりの取組に努めます。

④地域のつながりや交流を育む環境づくり

- 子育て層から高齢者まで多世代の市民をはじめ、学生、労働者（働きに訪れる人）まで、地域におけるさまざまな人々がつながりや交流を育むことができる環境づくりに取り組みます。

行政主体の取組	・つながりや交流を育む環境整備について検討します。（空家を活用した交流の場づくり（気軽に利用できるカフェ等）の誘導等） ・健康増進に資する遊歩道の整備を検討します。 ・老朽化した公園の再整備を検討します。
協働の取組	・空家や空店舗等を活用したコミュニティスペースの確保に向けた検討を行います。
市民主体の取組	・夏祭り等の地域行事に参加します。

図24 古井地域の方針図



3 山之上地域

① 地域の概況

- 山之上地域は市の北東部に位置し、豊かな里山に囲まれた自然豊かな地域です。山之上小学校では里山の自然を知る体験活動や地域に自生するアベマキを使った学校机の天板作りを行うなど地域の特徴を活かした教育を行っています。
- 地域にはぎふ清流里山公園（平成記念緑のふれ愛広場）、みのかも健康の森やゴルフ場といった観光・レクリエーション施設があります。また、8月中旬～10月中旬は山之上観光果樹園で梨狩りが楽しめ、山之上の梨は市の内外で認知されているブランドになっています。
- 住みよいまちづくりの推進を図ることを目的としてまちづくり協議会が設立されており、花壇の整備、そば打ち体験など市民との交流、里山の再生活動や文化芸能の継承活動、集まる場づくりが行われています。
- 山之上交流センターでは活発な市民活動が行われています。ここでは子育て中の母親や、クリエイターの人たちの活動が活発に行われているほか、毎年秋には山之上町民ふるさと祭りが開かれています。

図25 人口の推移及び将来人口推計

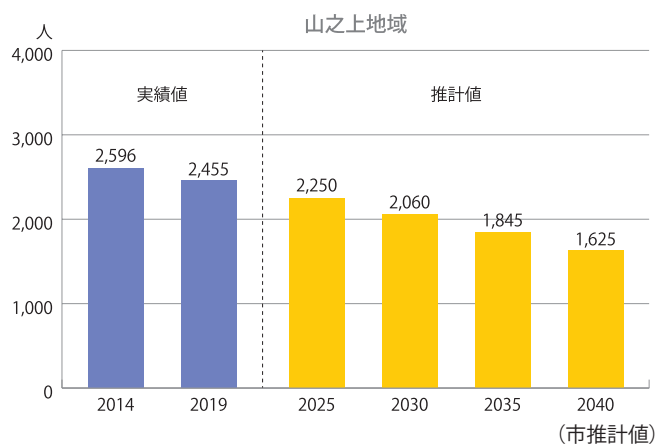


図26 人口の推移

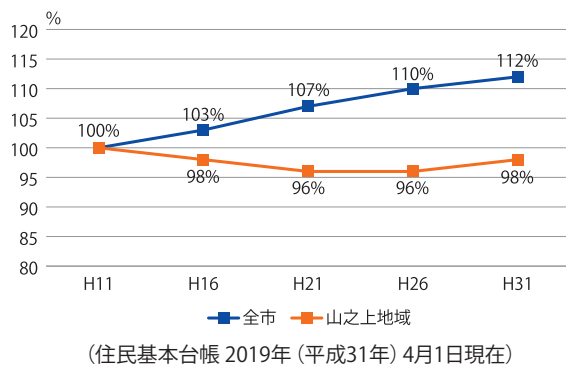
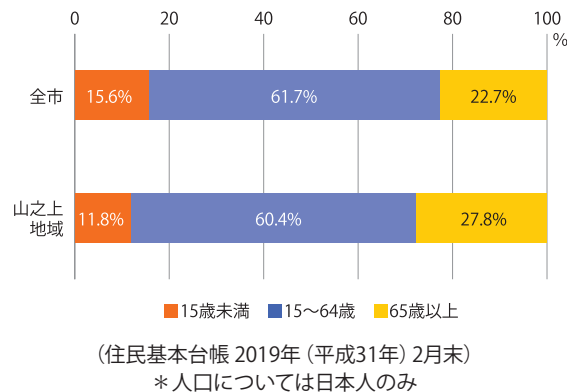


図27 年齢別人口構成



② 地域の課題

●日常生活（買物・交通）に対して不安がある

- 日常の暮らしにおいて、買物は幹線道路沿道の大型商業施設に依存しています。
- このような背景もあり、市民意向調査における「地域で感じている問題・課題」について、「身近に買物できる施設や医療施設等が少なく、不便である」が最も高く（45.9%）なっています。
- また、今後のまちづくりについて「病院や商業施設等に行きやすいように鉄道駅や主要な施設がバスで結ばれた、移動の利便性が高いまちづくりを目指す」が65.6%で非常に高くなっており、市民にとって使いやすい公共交通ネットワークの整備が求められています。

●持続可能な農業について不安がある

- 農地の獣害被害が散見されています。現在、山之上まちづくり協議会による竹林の整備や維持管理が行われていますが、引き続き取り組んでいく必要があります。
- また、農業従事者の高齢化の進展に伴う後継者不足の問題、さらには耕作放棄地の増加といった問題が顕在化しつつあります。
- 今後は、新規就農者の獲得に向けた検討とあわせて、付加価値の向上による経営改善など持続可能な農業のあり方についても検討をする必要があります。

●地域の伝統・文化の継承等に係る不安がある

- 地域住民の減少や高齢化等に伴い、十二社神社春の祭礼における「獅子芝居」と「神楽舞」など地域の伝統・文化の継承が難しくなっています。
- このような状況が続くことで、自治会や消防団等の地域活動の継続困難、ひいては地域のコミュニティ力の低下が懸念されます。

③ 地域づくりの将来像

豊かな自然の恵みがもたらす山之上ブランドを大切にし、 つながりや交流を育みながら住み続けられるまち

山之上地域は豊かな自然に恵まれた地域です。地域には、みのかも健康の森やぎふ清流里山公園（平成記念緑のふれ愛広場）といった観光・レクリエーション施設があり、市民のみならず広域から利用者が訪れます。

豊かな里山が身近にある環境を活かしつつ、里山林の持続的再生を目指し、本市では里山千年構想を策定しております。この構想に基づき里山再生プロジェクトと称する取組も進んでおり、里山を学びの場とする「森のようちえん」プロジェクト等も展開されています。

かつては農業を生業とした専業農家が多く、果樹園が広がり、山之上ブランドとして知られる梨をはじめぶどうや柿等の生産が盛んでした。しかし、近年は生産者の高齢化や後継者問題に直面し、耕作放棄地が増加しています。

地域住民にとって生活満足度は一定の充足を見せつつも、買物等の生活利便性に対する不安も少なからず感じている人が増えつつあります。

2016年（平成28年）には山之上まちづくり協議会によるビジョン（まちづくりの将来像）が作成されており、地域主体の3つの活動目的に基づきさまざまな取組が展開されています。

そのため、山之上地域では「地域でできることから始める」というまちづくり協議会が作成したビジョンのコンセプトを重視し、豊かな自然の恵みと生業がもたらす山之上ブランドを大切にし、つながりや交流を育みながら住み続けることができるまちを目指します。



④ 地域づくりの方針

①暮らし続けたいと思える生活環境づくり

- 若い世代も暮らしたいと思える生活環境（通勤・通学、地域コミュニティ等）づくりに向けて検討を行います。

行政主体の取組	・ICTを活用した支所機能の充実・強化を図ります。 ・空家バンクの活用を図ります。 ・周辺環境にも配慮した新規の産業用地の区域の確保に取り組みます。（地域における雇用の場の確保） ・土砂災害対策や治水対策を推進します。 ・地域を結ぶアクセス道路の整備を進めます。
協働の取組	・若い世代にとって負担にならない地域コミュニティのあり方について検討します。 ・地域で新たな移動手段（自家用車有償運送等）について検討します。
市民主体の取組	・空家活用に対する理解を深め、活用したい人へ提供します。

②持続可能な農業を支えるまちづくり

- 豊かな自然環境と地域住民の誇りにより生み出される山之上ブランドの継承、ひいては地域コミュニティを維持していくため、持続可能な農業のあり方等について検討を行います。

行政主体の取組	・農林業施設の整備に向けた検討を行います。 ・農地バンクのようなマッチングの仕組みの検討を行います。
協働の取組	・農業環境の保全と農業振興を推進します。 ・儲かる農業のあり方について検討を行います。（農地の集約化や組織化等） ・山之上ブランドを発信します。
市民主体の取組	・販路開拓など生産者と購買者とのネットワーク形成に取り組みます。

③つながりや交流促進による地域の活性化

- 地域にある自然資源や観光・レクリエーション施設等を活かし、つながりや交流促進による地域の活性化に取り組みます。

行政主体の取組	・無秩序な開発を抑制し、自然豊かな環境を保全します。 ・インバウンドの活用など観光資源の適切な維持・管理を行います。
協働の取組	・地域主体の都市農村交流の取組について検討します。
市民主体の取組	・緑化活動など緑豊かな空間づくりの取組に努めます。

④地域の誇りや愛着の醸成

- 地域の生業や伝統・文化やさまざまな活動を通じて、地域への愛着や誇りを育み、地域コミュニティの活性化につなげます。

行政主体の取組	・山之上交流センターを拠点とした地域コミュニティの活性化を進めます。
協働の取組	・里山や周辺の農地の適正管理を通じて、市民が誇りを持つことができる美しい里山風景の再生や里山資源の利活用を進めていきます。 ・地域の取組等をPRします。 ・地域住民だけでなく人を巻き込む方法を検討します。
市民主体の取組	・夏祭り等の地域行事の継続に尽力します。 ・まちづくり協議会等の活動に参加します。

図28 山之上地域の方針図



4 蜂屋地域

① 地域の概況

- 蜂屋地域は、市の中央部に位置し、良質な住宅地である中部台住宅団地や本市の活力をけん引する産業用地が集積するエリアとなっています。
- 中部台住宅団地の開発により人口増加が進み、比較的ファミリー層も多く住んでいます。地域には交流センター、連絡所に加え、市域中心にある利便性からみのかも文化の森や学校給食センター等の公共施設も立地しています。
- 工業団地(中蜂屋工業団地、蜂屋台工業団地)では製造業を中心とする企業が多く立地しており、市民の重要な雇用の場となっています。
- 地域内には室町時代後期の創建と云われる瑞林寺があり、市の重要な歴史的資源として市民に親しまれています。また、堂上蜂屋柿は地域だけでなく本市を代表する名産物であり、地域の誇りとなるブランドとして生産が営まれています。

図29 人口・世帯数の推移

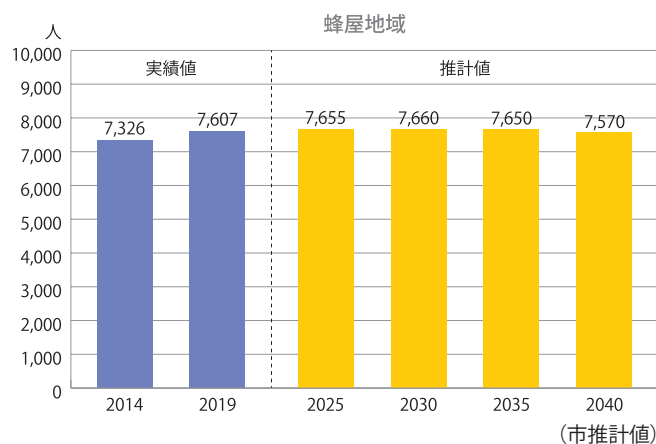


図30 人口の推移

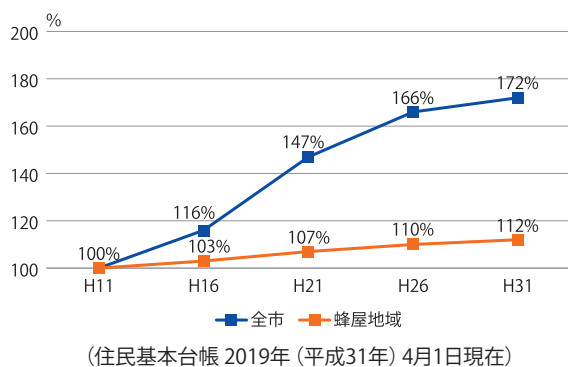
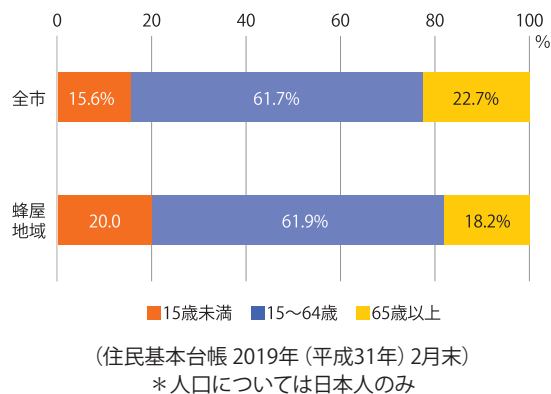


図31 年齢別人口構成





② 地域の課題

●日常生活（買物・交通）に対して不安がある

- 地域内に生活利便施設が少ないという意見があります。市民意向調査においても、「買物の便利さ」について「重要」あるいは「やや重要」と回答した割合は69.4%にのぼっています。しかし、満足度をみると「満足」あるいは「やや満足」と回答した割合は47.1%にとどまっています。
- あい愛バスが運行されているものの、市民意向調査結果をみると「バスの利用しやすさ」等の満足度は全市平均より低く、生活実感として公共交通の利便性が低いという意見がみうけられます。
- 国道418号は交通量が多く渋滞という問題があるほか、児童の通学路となっているため、安全性を不安視する声もあります。

●地域環境と調和した産業用地（雇用の場）の維持・確保が大切である

- 地域内には多くの工場が立地しており、地域住民だけでなく市民の大切な雇用の場となっています。
- 現在も企業の進出意向は高いため、そういった企業の声に対応するとともに、地域の豊かな自然環境や生活環境と調和した産業用地の維持・確保が大切です。

●里山等の自然環境が十分に活かされていない

- 豊かな自然環境があるものの十分に活用ができていないという問題があります。また、荒れている里山も散見され、「里山千年基本計画」に基づいて整備、活用を進めていく必要があります。
- 耕作放棄地が多く、田畑が減っています。1990年（平成2年）時点では269haあった経営耕地面積は、2015年（平成27年）時点で173haとなっています。
- 地域では農業生産法人が2経営体、個人が3経営体、集落営農（任意組織）が1組織存在していて、農業の担い手はいるものの十分ではありません。地域の農地所有者及び農業をリタイア、経営転換する人へのサポートが必要です。
- 農地では猪等による獣害も目立っており、地域の重要な問題となっています。

●堂上蜂屋柿など第一次産業の後継者が不足している

- 堂上蜂屋柿は地域の内外から高い評価を受けていますが、農家が減少しており、後継者も少なくなっているため、先行きが見通せない状況です。堂上蜂屋柿の生産振興・継承のために、後継者の確保や営農環境のあり方を検討する必要があります。

●地域コミュニティの低下がみられる

- 地区では中部台の宅地開発で人口が増加しています。その一方、新たな市民と古くからの市民との価値観やライフスタイルの相違等に起因する地域コミュニティのあり方が問題となっています。
- 少子高齢化やコミュニティの希薄化によって地域の祭事の維持が困難となっている地区があるほか、学区の中でも自治会等の地域活動に差が出ています。
- また、地域活動の核となる蜂屋小学校では旧耐震基準建物の大規模修繕や更新、再配置の検討が課題となっています。校区が広いため、居住地によっては小学校が遠いという問題も抱えています。

③ 地域づくりの将来像

地域の誇りである蜂屋柿ブランドを大切に、みんながつながりや一体感を感じながら住み続けられるまち

蜂屋地域は、中部台住宅団地の開発によって人口増加が進んでおり、比較的若い世代が多く暮らしています。本市を代表する工業団地も集積しており、自然との調和の中で本市の活力をけん引する経済活動が盛んな地域でもあります。

また、地域南には新病院(中部国際医療センター)が整備中であり、医療拠点を中心とした健康を重視したまちづくりへの展開も期待されます。

一方、古くからの集落や蜂屋柿を生産する農家等も多数残っていることも特徴ですが、後継者問題等から継続的な生産活動に不安があります。

そのため、蜂屋地域では地域の誇りである蜂屋柿をこれからも生産、発信し続けられる環境(自然環境や営農環境等)を大切に、蜂屋地域に暮らすみんながつながりや一体感を感じながら住み続けることができるまちを目指します。



④ 地域づくりの方針

① 持続的に暮らし続けることができる生活環境の維持・保全

- 中部台地の住宅団地など良好な戸建住宅地等の環境の保全や公共交通ネットワークの維持を図りながら、これからも住み続けたい生活環境の維持・保全に向けて検討を行います。

行政主体の取組	・ICTを活用した支所機能の充実・強化を図ります。 ・地区計画の適切な運用を図ります。 ・地域主体のルールづくりの支援を行います。 ・生活利便性の確保のためバス路線の維持を図ります。 ・道路環境の改善を検討します。(通学路の安全対策(国道418号)等) ・蜂屋交流センターについて整備を検討します。 ・土砂災害対策や治水対策を推進します。
協働の取組	・企業や市民を交えたモビリティ・マネジメントのあり方について検討します。(公共交通利用促進) ・農業環境の保全と農業振興を推進します。
市民主体の取組	・地域主体のルールづくりに向けた検討を行います。 ・住宅地の敷地境界に緑化する等の取組に努めます。 ・コミュニティバスを利用します。

②新たな企業誘致に向けた検討

- 本市の活力をけん引するだけでなく、地域住民の雇用のある工場等の企業進出ニーズに対応すべく新たな産業用地の整備に向けた検討を行います。

行政主体の取組	・周辺環境や景観にも配慮した新規の産業用地の区域の確保に取り組みます。(特定用途制限地域における建物用途の緩和等) ・安全に配慮しつつ産業活動を支える道路整備を推進します。(スカイロード2号線、下則友南坂線) ・地域を結ぶアクセス道路の整備を検討します。
協働の取組	・企業と市民の共存のあり方(イベントの実施や防災協定の締結等)をともに検討します。
市民主体の取組	・地域のまちづくり活動に参加します。

③医療拠点を活かした健康まちづくり

- 新病院(中部国際医療センター)や関連する医療・福祉系の施設立地を活かした、誰もが健康に暮らせるまちづくりを推進します。

行政主体の取組	・中部国際医療センターや保健センター・子育て世代包括支援センター等の整備により医療拠点到にふさわしい機能強化を図ります。 ・地域を結ぶアクセス道路の整備を検討します。
協働の取組	・地域内の危険箇所についての点検や意見交換を行います。 ・高齢者が外出する機会や場づくりについて検討します。
市民主体の取組	・コミュニティバスや徒歩による移動を心がけ、健康づくりに努めます。

④自然環境の保全と継承

- 地域の特徴を育む源である自然環境の保全を図り、将来に渡って持続可能な蜂屋らしい暮らしのために次世代への継承に取り組みます。

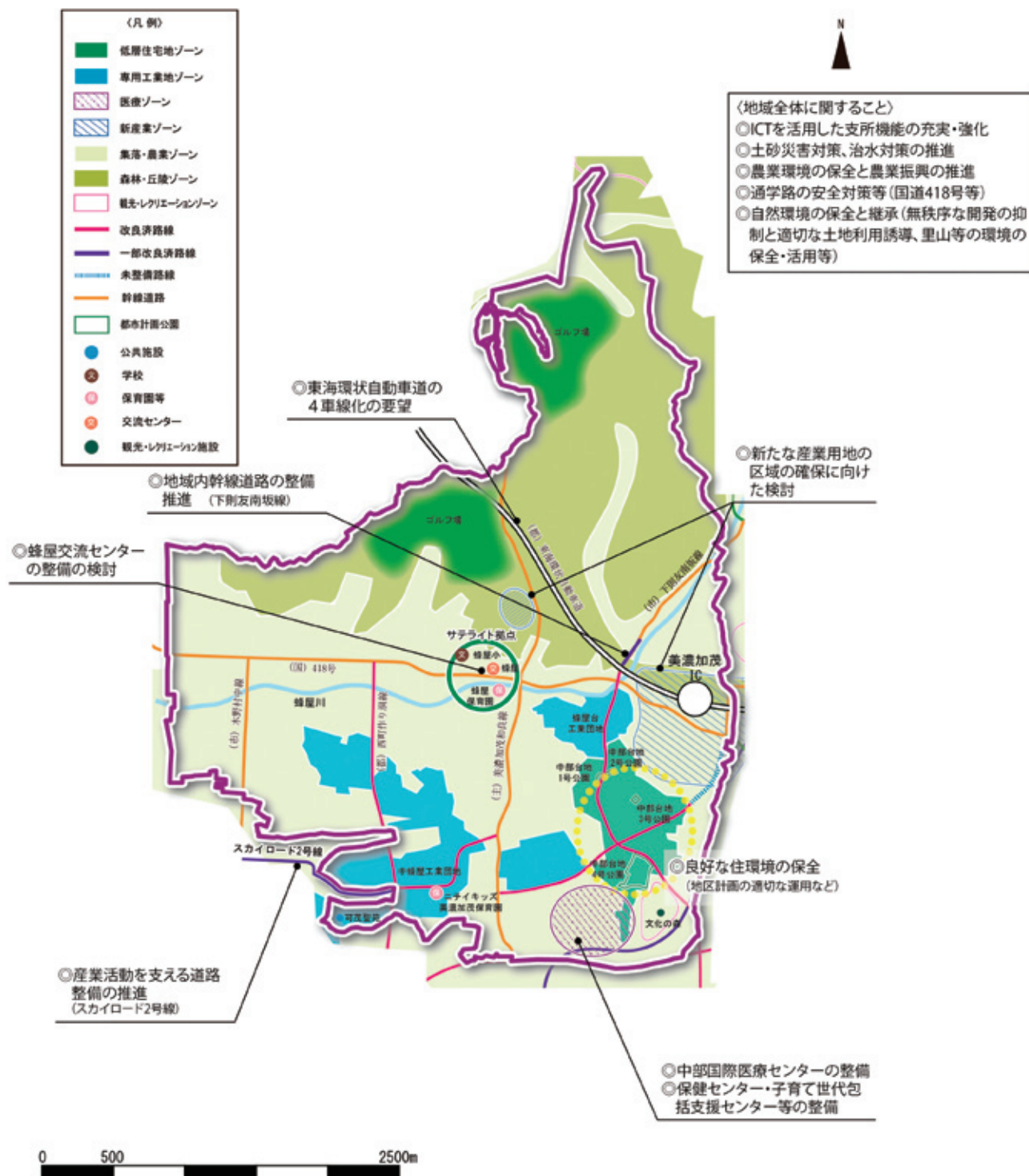
行政主体の取組	・無秩序な開発を抑制し、適切な土地利用を誘導します。 ・里山等の環境を適切に守り、活かすことで里山を活用した教育支援等の場の創出に努めます。
協働の取組	・地域で山や川の管理をします。 ・堂上蜂屋柿のPR方法等を検討します。
市民主体の取組	・自然と関わる暮らしを意識します。(生活スタイルを見直す等) ・農業行為の野焼きや焚火をするときは近隣に配慮します。

⑤地域の誇りや愛着の醸成

- 地域の生業や伝統・文化やさまざまな活動を通じて、地域への愛着や誇りを育み、地域コミュニティの活性化につなげます。

行政主体の取組	・まちづくり協議会の設立や活動を支援します。
協働の取組	・地域の取組等をPRします。 ・地域住民だけでなく人を巻き込む方法を検討します。
市民主体の取組	・地域行事に参加します。

図32 蜂屋地域の方針図



5 加茂野地域

① 地域の概況

- 加茂野地域は、市南西部に位置しており、今泉三ツ池をはじめとして多くの池と自然に囲まれている地域です。
- 豊かな農地に恵まれており、サトイモや米が栽培されています。耕地面積は143ha（2015年（平成27年）時点）で、8地域の中で蜂屋地域に次いで二番目に耕地面積が大きくなっています。
- また、本地域は市内でも人口増加が顕著なエリアで、人口増加とともに加茂野駅の利用者数も増えていきます。その一方で、農地が住宅地に転用され、農地の減少や緑のある田園風景が損なわれるといった状況を懸念する声も出ています。
- まちづくり協議会の活動が盛んで加茂野交流センターの運営を行っています。
- 木野地区や鷹之巣地区の獅子舞、今泉地区では浦安の舞といった伝統芸能が残っています。

図33 人口の推移及び将来人口推計

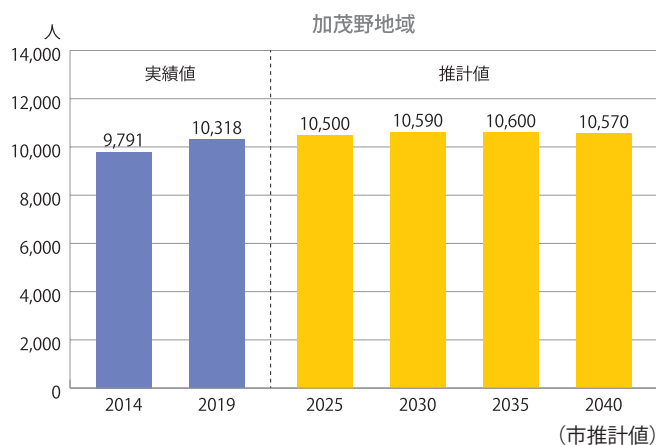


図34 人口の推移

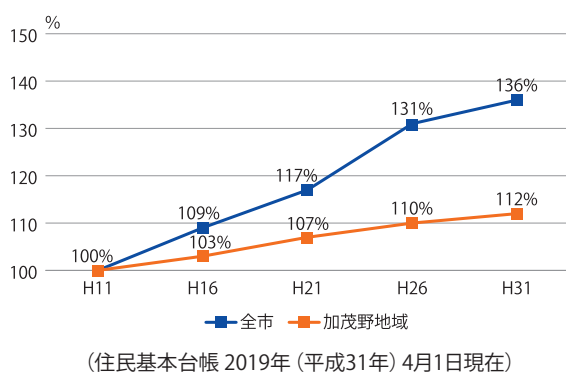
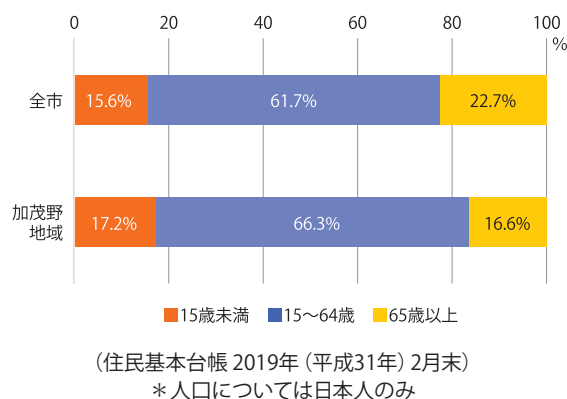


図35 年齢別人口構成



② 地域の課題

●日常生活(買物・交通)に対して不安がある

- 国道248号沿道には大型商業施設が立地しているものの、地域内にはスーパー等の商業施設が少なく、市民の日用品等の買物は市外地域に依存している状況です。
- 市民意向調査における「買物の便利さ」をみると、「満足＋やや満足」と回答した人の合計は39.3%となっています。
- また、今後のまちづくりについては「病院や商業施設等に行きやすいように鉄道駅や主要な施設がバスで結ばれた、移動の利便性が高いまちづくりを目指す」との回答が55.3%にのぼり、あい愛バスをはじめとする公共交通ネットワークのあり方についても検討していく必要があります。

●田園環境の保全に関する不安がある

- 当地域では、農地の緑と一体となった住宅環境が魅力のひとつですが、住宅地開発の進展とともにそのバランスが損なわれつつある状況がみられます。
- 一方、農業の担い手は高齢化が進行し、後継者不足による耕作放棄地の増加が懸念されています。現在は農業の担い手はいるものの十分ではなく、中心的担い手の育成が課題となっています。加えて、アライグマをはじめとする鳥獣被害が目立つようになってきており、対策を講じる必要があります。
- これら農業の担い手不足への対応を図るとともに、農地と住宅地が共生する田園環境の保全を図っていく必要があります。

●地域コミュニティの低下がみられる

- 地域の人口が増加傾向にある一方、自治会への加入者が少なくなっているという問題もあります。これは、転入してきた市民や外国人が自治会に加入しないことが原因のひとつとされ、地域活動の意義や必要性を理解してもらうような取組も必要です。
- また、これまでに開発された住宅団地など住民の高齢化が進んだ地区では、自治会運営に支障をきたすなど地域活動のみならず地域の伝統的行事の継承が難しくなることが危惧されています。

③ 地域づくりの将来像

農地の緑に囲まれた田園環境と調和した便利で快適な暮らしができるまち

加茂野地域は、市南西部においてまとまりのある農地が広がっている地域です。ほ場整備により整った農地が広がる緑の田園風景は私たちの暮らしにうるおいを与えてくれます。

地域内には長良川鉄道加茂野駅があり、地域住民の通勤・通学の大切な鉄道駅として機能しています。東西方向には国道248号、市道若宮加茂野線があり、市中心部や隣接する関市をはじめ岐阜市方面への移動も便利になっています。

国道248号沿いには、隣接する坂祝町に大型商業施設も立地し、地域の買物の利便性にも大きく寄与しています。

また、加茂野地域は市内で最も人口が増加している地域であり、本市の活力向上を後押ししています。その一方、農地から住宅地への転用が進行しており、まとまりある農地の喪失やそれがもたらすうるおいある景観が損なわれていくことが懸念されており、今後は人口増加に伴う活力の向上と田園環境の保全をいかにバランスよく図っていくかが大切です。

そのため、加茂野地域では農地の緑に囲まれた田園環境と便利で快適な都市的な生活を享受することのできる加茂野らしさを活かしたまちを目指します。



④ 地域づくりの方針

① 地域の暮らしを支える生活環境の向上

- 人口増加を支える暮らしの利便性を損なうことのないように現在の生活環境（買物、通勤・通学等）の向上に向けて検討を行います。

行政主体の取組	・ ICTの活用による支所機能の充実・強化や暮らしの利便性を支える生活利便機能（買物、教育、子育て、福祉等）の向上を図ります。 ・ 空家バンクの活用を図ります。 ・ 雨水きよの整備を促進します。 ・ 通学路の安全対策等を検討します。 ・ 産業活動を支える道路整備を推進します。（スカイロード2号線） ・ 治水対策を推進します。
協働の取組	・ 若い世代にとって負担にならない地域コミュニティのあり方について検討します。 ・ 通学路の安全の見守りや防犯対策等の取組を続けていきます。
市民主体の取組	・ 地域や近隣にある商業施設を積極的に利用します。 ・ 公共交通（鉄道、バス）を積極的に利用します。

②加茂野らしい田園都市環境の保全

- 加茂野地域の特徴である農地の広がる空間、住宅地と織りなす農地の緑がもたらすうるおいある景観の保全を図ります。

行政主体の取組	・優良農地など農地を保全するエリアと住宅地として利用するエリアを区分し、適切な土地利用の誘導に向けた検討を行います。（地区計画・特定用途制限地域の指定の検討等）
協働の取組	・農業環境の保全と農業振興を推進します。 ・もうかる農業のあり方について検討を行います。（農地の集約化や組織化等） ・地域主体のルールづくりに向けた意識啓発に努めます。（田園都市環境の保全に向けた地元住民への意識啓発、地域の意識が醸成された際における地区計画制度等の導入に向けた勉強会の開催等）
市民主体の取組	・農業行為の野焼きや焚火をするときは近隣に配慮します。

③地域のつながりや交流の促進

- 新たな市民も増加していることから、地域住民のつながりや交流促進に取り組めます。

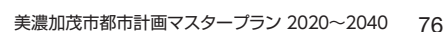
行政主体の取組	・空地を活用した身近な公園整備等について検討します。
協働の取組	・加茂野交流センターを有効活用します。（イベント開催・講座・まちづくり勉強会、サークル活動等）
市民主体の取組	・緑化活動など緑豊かな空間づくりの取組に努めます。 ・夏祭り等の地域行事に参加します。

④地域住民主体のまちづくり活動の推進

- 一人ひとりがまちづくりの担い手であることを意識し、相互扶助の精神のもと地域住民主体のまちづくり活動に取り組めます。

行政主体の取組	・まちづくりに関する意識啓発の場や機会の提供を行います。
協働の取組	・自治会活動の趣旨・目的を啓発し、理解を求める努力をします。
市民主体の取組	・自治会活動に参加します。

図36 加茂野地域の方針図



6 伊深地域

① 地域の概況

- 伊深地域は市の北部に位置し、豊かな田、里山環境が広がっています。
- 当地域には、妙心寺の「奥の院」と呼ばれる厳しい修行道場である正眼寺、築100年の古民家である旧櫻井邸を有し、散策しながらその歴史や文化を感じることができます。
- また、2018年(平成30年)5月には、登録有形文化財「旧伊深村役場庁舎」が「伊深町に伝わる歴史や文化の魅力を国内外に発信する拠点にする」をコンセプトに、カフェ(茶霞o'carré(さかオキャレ))となって生まれ変わりました。
- 美濃加茂市景観計画において景観計画重点区域に定められており、「伊深の景観をめぐる道づくり」を目標に景観形成の方針が定められています。
- 地域ではまちづくり協議会が発足しており、凧揚げ大会やお月見会等の交流行事や、「伊深ごはん研究会」が中心となって郷土料理の研究と伝承活動を行っています。

図37 人口の推移及び将来人口推計

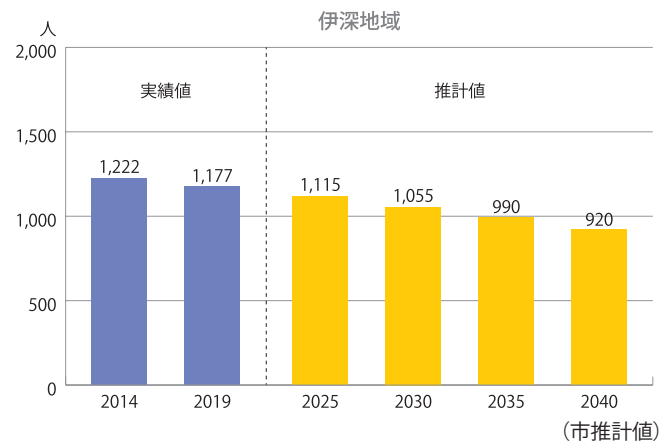


図38 人口の推移

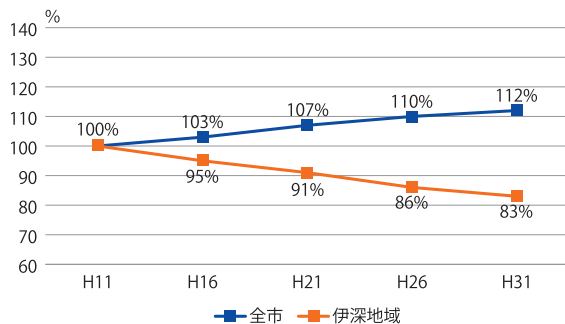
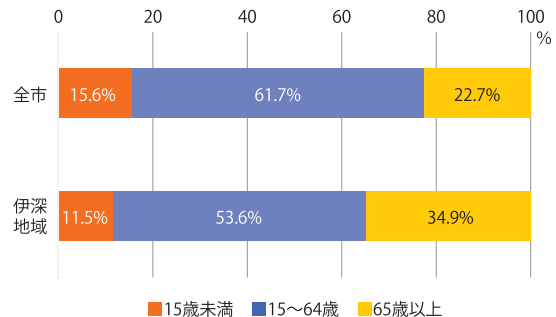


図39 年齢別人口構成





② 地域の課題

●生活環境の維持/人口減少社会への対応が必要

- 他の地域と比べても人口減少が著しく、若い世代も減少しています。また、空家の増加もみられ、結果として地域の活力減退が進むことが懸念されます。
- 市内北部という事情を鑑みても、市民意向調査では、「買物の満足度」で「満足＋やや満足」の割合は20.6%と低くなっています。
- また、同じく「地域で感じている問題・課題」については「身近に買物できる施設や医療施設等が少なく、不便である」が75.9%で高くなっています。
- 現在、地域内の伊深小学校は小規模特認校及び市ICT教育推進指定校に指定され、特色ある教育を推進し、若い世代の増加や交流を目指した取組を進めているところです。

●持続可能な農業について不安がある

- 地域には1990年（平成2年）と比較して約半分に減少したものの、約35haの広い耕地面積を有しています。
- しかしながら有害鳥獣問題の深刻化に伴い、農業を続けることに支障が出てきています。ニホンザル、イノシシといった従来の被害に加えて、近年ではニホンジカも頻繁に目撃されるようになっており、地域全体の問題として対策する必要があります。
- 加えて農業の担い手不足の問題も顕在化しており、新規就農者の確保と支援に取り組むとともに農業に参入しやすい環境整備等についても検討する必要があります。

●地域の伝統・文化・歴史の継承等に対する不安がある

- 地域住民の減少や高齢化等に伴い、お神輿やどんど焼きといった地域の伝統・文化の継承が難しくなっています。また、地域の名所や旧跡といった歴史的資源の継承も難しくなっています。
- このような状況が続くことで、地域の活力が低下し、地域コミュニティの低下が懸念されます。

③ 地域づくりの将来像

歴史・文化やめぐまれた自然を活かし、落ち着いたたたずまいを大切にみんなの笑顔があふれるまち

伊深地域は、市北部に位置し、里山を背後に有し農地が広がる昔ながらの原風景を楽しめる地域です。地域内には中世に建立された臨済宗妙心寺派の正眼寺をはじめ、龍安寺、最乗寺などたくさんの歴史・文化資源が点在し、地域と寺院のつながりのある暮らしが営まれてきました。

近年は、少子高齢化が進行し、子どもやファミリー層の減少により地域の行事等の存続が困難になりつつあります。農業も担い手不足のため、耕作放棄地の増加につながっています。

一方、そういった状況に歯止めをかけるため、登録有形文化財である旧伊深村役場を活用したカフェ「茶霞o'carre」がオープンし、地域住民の新たな交流の場としてにぎわっています。2017年(平成29年)には、伊深地域の未来を考えるしゃべり場による「伊深地区まちづくり基本構想」が作成され、地域主体のまちづくり活動が展開されています。

このような状況を受けて伊深地域では、歴史・文化を醸す空間と自然との共生を享受できる、伊深らしいたたずまいを大切に、みんなの笑顔があふれるまちを目指します。



④ 地域づくりの方針

① 地域の暮らしを支える生活環境の維持・保全

- 今、住んでいる住民だけでなく、地域外からも住みたいと思える生活環境(通勤・通学、地域コミュニティ等)の維持・保全に向けて検討を行います。

行政主体の取組	・ICTを活用した支所機能の充実・強化を図ります。 ・空家バンクの積極的な活用を図ります。 ・小学校(小規模特認校)の活用を図ります。 ・新伊深交流センターの整備を推進します。 ・老朽化したため池の整備を図ります。 ・土砂災害対策や治水対策を推進します。
協働の取組	・若い世代にとって負担にならない地域コミュニティのあり方について検討します。 ・地域で新たな移動手段(自家用車有償運送等)について検討します。 ・移住体験等ができる仕組みについて検討します。
市民主体の取組	・空家活用に対する理解を深め、活用したい人へ提供します。



②歴史・文化を活かした魅力ある環境づくり

- 地域に点在する歴史・文化資源を活かしつつ、魅力ある環境づくりに取り組みます。

行政主体の取組	・正眼寺を活かした門前町らしい景観に配慮したまちづくりを進めます（景観計画重点区域の保全等）。 ・インバウンドの活用を検討します。
協働の取組	・地域が主体となって歴史や文化（正眼寺や龍安寺等）のPRを検討します（散策マップの作成等）
市民主体の取組	・地域の歴史や文化を大切に、次世代に継承していきます。

③地域のつながりや交流を育む環境づくり

- 地域の人々が安心して暮らし続けることができるベースとなるつながりや交流を育む環境づくりに取り組みます。

行政主体の取組	・古民家の活用について検討します。（古民家の場所や空状況の調査等） ・地域を結ぶ県道やアクセス道路の整備を進めます。
協働の取組	・自然環境や歴史・文化資源を活かした交流イベント等を検討します。
市民主体の取組	・地域主体でまちあるきを企画するなど伊深の魅力を発信する取組を考えます。

図40 伊深地域の方針図



7 三和地域

① 地域の概況

- 三和地域は市の北部に位置し、海拔559.2mの御殿山を中心とした山間地域となっており、深い緑の山と清らかな川に囲まれた地域です。自然が豊かで、御殿山キャンプ場、奥山自然遊歩道といった観光地があります。
- 地域にはホタルが生息しており、毎年夏には多くの観光客がホタルの乱舞を見に訪れます。全国にさががけて源氏ボタルの保全活動と養殖に取り組んでいます。
- 小規模特認校となっている三和小学校においてもホタルの保護活動といった独特の教育を実施しているほか、「地域子育て支援センター」「ほっとカフェ」等、子育て世代へ向けた特色的な取組を実施しています。
- 地域では三和まちづくり協議会の活動が活発で、地域をみんなの身近な庭のような居場所にしたいと「みわにわ」をキャッチフレーズとしてまちづくりに取り組んでいます。具体的には、空家の活用や、盆踊り等の交流イベントの開催のほか、御殿山キャンプ場の管理運営を行っており、人と人とのつながりが豊かな地域です。
- 地域は美濃加茂市景観計画において「景観計画重点区域」とされており、「山桜とホタルの里づくり」という目標が掲げられています。

図41 人口の推移及び将来人口推計

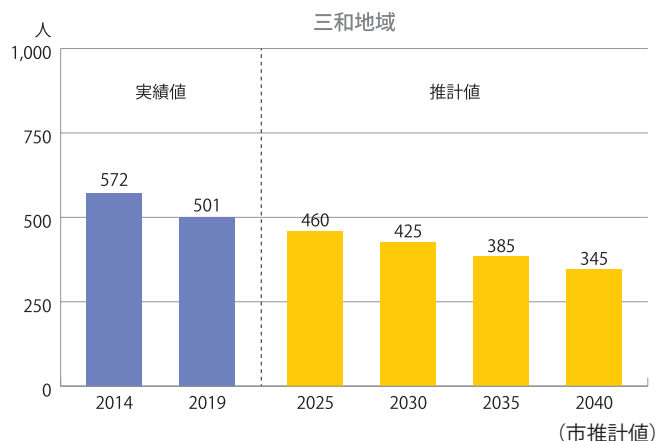
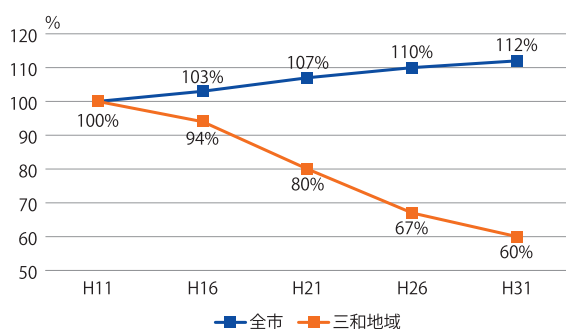
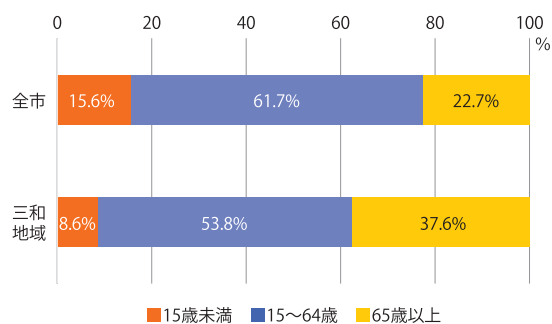


図42 人口の推移



(住民基本台帳 2019年(平成31年)4月1日現在)

図43 年齢別人口構成



(住民基本台帳 2019年(平成31年)2月末)

*人口については日本人のみ

② 地域の課題

● 交通(移動)に関する利便性について不安がある

- 日常の移動は自家用車やバスに依存しており、移動手段についての不安があります。地域の道路は、蜚が飛ぶ時期には市内中心部から蜚を見に来る人で混雑するという問題もはらんでいます。
- 美濃加茂市地域公共交通網形成計画(2015年(平成27年)策定)における市民意向調査をみると、「自動車運転を止めた後に利用している又は利用したい主な移動手段」としてはバスが83.5%と、他地域と比較して高くなっています。
- このことから、あい愛バスの需要がうかがえます。地域のニーズに即したあい愛バスの運行形態の構築が求められています。

● 農地の保全に対する不安がある

- 地域の経営耕地面積は2015年(平成27年)現在で18haですが、これは1990年(平成2)年と比較すると約1/3となっています。そんな中、地域は過疎化が進むとともに担い手の高齢化が進み、耕作放棄地が多くなっており、農業の後継者もない状況となっています。新規就農者を誘致する必要があります。
- また、田や畑の有害鳥獣問題が深刻化しており、農業を続けることに支障が出てきています。
- 市民意向調査では、地域で感じている課題について「耕作放棄地が増加し、農地のある空間が失われている」が最も高く、60%を占めています。

● 地域のつながり不足が進む懸念がある

- 地域では人口減少が急速なペースで進んでおり、若い世代が少なくなっています。
- このままでは地域のつながりや活力の低下が懸念されることから、市では子育て世代を対象に定住促進住宅を整備して人口誘導に努めています。
- しかし、現在も消防団員が不足していたり、小学校の児童数が減少しているなどさまざまな問題が出てきています。
- また、空家も増えてきており、美濃加茂市空家等対策計画(2017年(平成29年))によれば、世帯数に対する空家等の割合は高く、7.1%となっています。

③ 地域づくりの将来像

誰もが「行ってみたい」「住んでみたい」「住み続けたい」 と思える交流のまち

三和地域は、市北部に位置し自然豊かな山間地域です。地域の北にある御殿山のふもとにあるキャンプ場は自然体験を楽しむ人達がたくさん訪れます。

また、しいたけ種菌発祥の地といわれ、三和で生まれたしいたけが日本全国で栽培されています。源氏ボタルの保全活動も盛んで、夏には地域外からも多くの観光客が見物に訪れます。

集落ではお互いに顔が見える関係にあることから地域のつながりが強く、2015年（平成27年）には三和まちづくり協議会による「ほたるの里 三和まちづくりビジョン」が作成され、地域主体のまちづくり活動が活発に行われています。

一方、人口減少は他地域に比べても著しく、人口減少により地域の資産（自然や農地、地域コミュニティ等）の維持が難しくなりつつあります。

そのため、三和地域ではまちづくりビジョンで掲げた合言葉：「みわにわ（“みんなのにわ”の意）」のもと、誰もが「行ってみたい」「住んでみたい」「住み続けたい」と思えるまちを目指します。



④ 地域づくりの方針

① 地域の暮らしを支える生活環境の維持・保全

- 今、住んでいる住民だけでなく、地域外からも住みたいと思える生活環境（通勤・通学、地域コミュニティ等）の維持・保全に向けて検討を行います。

行政主体の取組	・ICTを活用した支所機能の充実・強化を図ります。 ・空家バンクの積極的な活用を図ります。 ・特色ある小学校を目指し、小規模特認校制度の活用を市内に広めます。 ・土砂災害対策や治水対策を推進します。
協働の取組	・若い世代にとって負担にならない地域コミュニティのあり方について検討します。 ・地域で新たな移動手段（自家用車有償運送等）について検討します。 ・移住体験等ができる仕組みについて検討します。
市民主体の取組	・空家活用に対する理解を深め、活用したい人へ提供します。 ・空家への移住・定住者を募り、面接の実施等を通じ所有者への橋渡しを行います。

②農地の保全と活用

- 集落や暮らしの持続性を守るため、その基盤となる農地の保全と活用に取り組みます。

行政主体の取組	・ 農林業施設の整備に向けた検討を行います。 ・ 農地バンクのようなマッチングの仕組みを検討します。
協働の取組	・ 地域外の営農希望者とのマッチングにつながる地域内での貸農地リストの作成に向けて検討します。 ・ 集落営農法人の設立を目指します。
市民主体の取組	・ 適切に農地の管理を行います。

③自然を活かしたつながりや交流促進による地域の活性化

- 地域にある自然資源や観光・レクリエーション施設等を活かし、つながりや交流促進による地域の活性化に取り組みます。

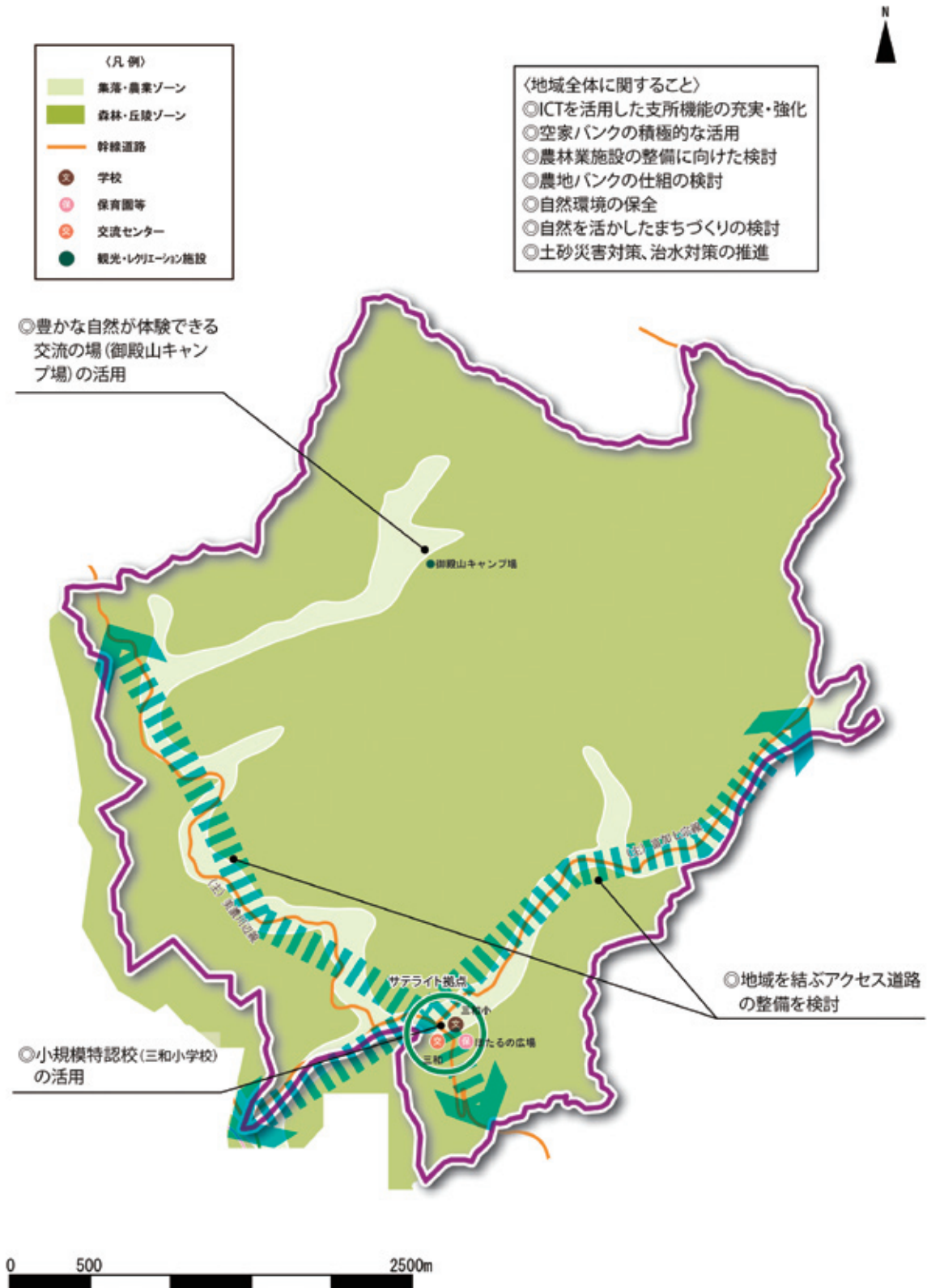
行政主体の取組	・ 自然豊かな環境を保全します（景観計画重点区域）。
協働の取組	・ 地域主体の都市農村交流の取組について検討します。 ・ 源氏ボタルが生息できる環境を守ります。 ・ 御殿山キャンプ場の利用者を増やし交流を進めます。
市民主体の取組	・ 三和の魅力を発見し地域外に発信します。

④地域のつながりや交流を育む環境づくり

- 地域の人々が安心して暮らし続けることができるベースとなるつながりや交流を育む環境づくりに取り組みます。

行政主体の取組	・ 地域を結ぶ県道やアクセス道路の整備を進めます。
協働の取組	・ 豊かな自然環境など地域資源を活かした交流イベント等を検討します。
市民主体の取組	・ まちづくり協議会主体のまちあるきや盆踊り大会など三和の魅力を市内外に発信する取組を継続していきます。

図44 三和地域の方針図



8 下米田地域

① 地域の概況

- 下米田地域は、市の東部にあり、田園風景が美しく桜の森等の自然が豊かな地域です。その中で、牧野地区では工場が立ち並び、若い世代が住宅を建てている地域もあり、居住空間と農空間、働く場が調和したエリアです。
- 地域では小山観音初午祭、諏訪神社の大祭等のお祭りが開かれ、地域の風物詩となっています。
- 牧野ふれあい広場は、新サッカー場、陸上トラック一体化の整備、雨水貯水施設の整備の計画があり、新たな地域の拠点候補となっています。
- 地域ではまちづくり協議会が発足しており、地域主体のまちづくり活動が展開されており、下米田地区文化祭、市民運動会といったスポーツ活動、サークル活動等の地域活動が盛んに行われており、住民同士の交流が盛んな地域です。

図45 人口の推移及び将来人口推計

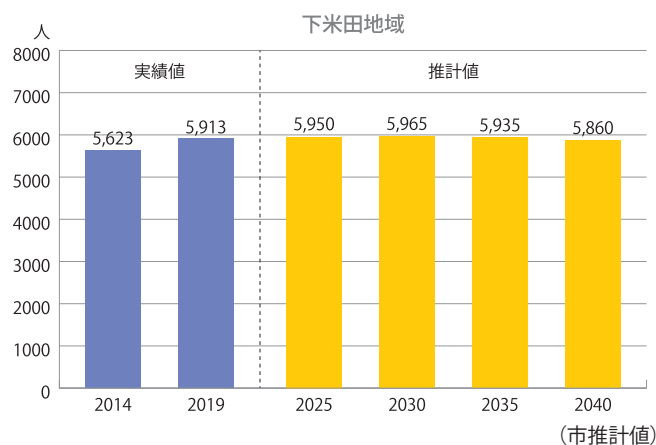


図46 人口の推移

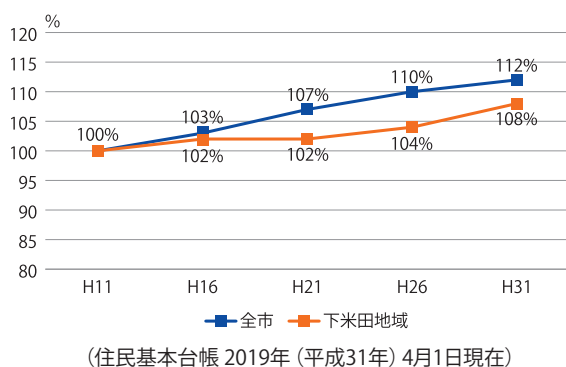
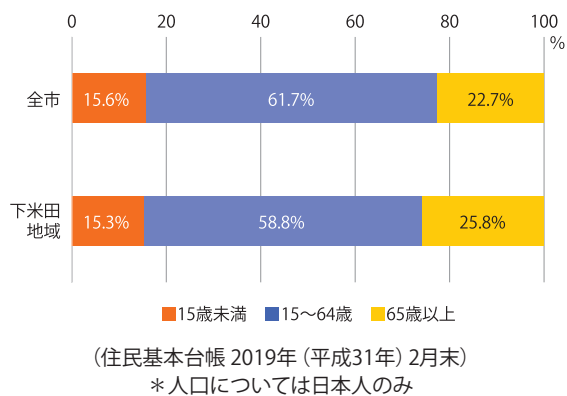


図47 年齢別人口構成





② 地域の課題

● 交通（移動）に関する利便性について不安がある

- あい愛バスが地域住民の重要な公共交通として機能していますが、運行経路（左回り／右回り）の違いにより美濃太田駅までの所要時間が大きく異なり、利用しづらいといった声も少なくありません。
- 市民意識調査の「バスの利用しやすさ」においても、「満足」と「やや満足」の割合は全体の8.1%であり、市内中心部より低くなっています。
- 住民ニーズや利用しやすさを考慮した、あい愛バスの運行体系のあり方について検討する必要があります。

● 営農環境についての不安がある

- 農業の担い手は高齢化が進んでおり、後継者不足が問題視される状況です。
- 2015年（平成27年）時点の経営耕地面積は116haであり、1993年（平成2年）と比較すると半分以下となっており、耕作放棄地も増えています。
- また、鳥獣被害が増加しつつあり、里山や竹林の整備を図るとともに有害鳥獣による被害への対応も必要です。

● 地域におけるつながりが希薄化しつつある

- 地域で若い世代が減少しており、祭礼など若年層の参加者が不足しています。
- 宅地化が進むにつれて近所づきあいが減り、自治会のつながりの希薄化が危惧されます。また、消防団の担い手も不足しています。
- また、外国人市民が多い地区は自治会加入率が低いという問題もあります。きっかけをつくって、さまざまな人が交流できる環境が求められています。

③ 地域づくりの将来像

豊かな自然の中で、健康でスポーツを楽しめる環境や子育てしやすい 環境が整った、安全で住みよいまち

下米田地域は、飛騨川左岸の市東部に位置し、東山が地域を見守るようにそびえています。

地域内には、東山森林公園下米田さくらの森、県立可茂特別支援学校や牧野ふれあい広場、緑ヶ丘クリーンセンター、牧野工業団地などさまざまな施設が立地しています。

飛騨川沿いにある小山観音は、蚕の本尊としてだけではなく、無病息災、道中安全、子授けの本尊としても地域の人々の信仰を集める象徴となっています。

近年、下米田町今北の交差点付近に商業施設が複数立地し、地域の利便性向上に大きく寄与しているところです。

また、2017年(平成29年)には、下米田まちづくり協議会による「下米田地区まちづくりビジョン」が作成され、地域主体のまちづくり活動が展開されています。

このような状況を受けて下米田地域では、自然豊かで、健康でスポーツを楽しめる環境や子育て環境や働く場が整った、下米田を愛する仲間が集う安全で住みよいまちを目指します。



④ 地域づくりの方針

① 地域の暮らしを支える生活環境の維持・保全

- 今、住んでいる市民だけでなく、地域外からも住みたいと思える生活環境(買物、通勤・通学、地域コミュニティ等)の維持・保全に向けて検討を行います。

行政主体の取組	・ICTを活用した支所機能の充実・強化を図ります。 ・空家バンクの積極的な活用を図ります。 ・雨水きよの整備を促進します。 ・老朽化が顕著な下米田交流センターについては、他の公共施設との複合化等による整備を積極的に検討します。 ・老朽化したため池の整備を図ります。 ・土砂災害対策や治水対策を推進します。
協働の取組	・若い世代にとって負担にならない地域コミュニティのあり方について検討します。 ・地域で新たな移動手段について検討します。
市民主体の取組	・空家に対する理解を深め、活用したい人への提供を検討します。

②自然豊かな環境を活かした子育て環境の充実

- 身近に里山があるなど自然に恵まれた環境を活かしつつ、若者の地域への定着を進めるために子育て環境の充実を図ります。

行政主体の取組	・牧野ふれあい広場については、本市のスポーツ拠点にふさわしい市民に親しまれるスポーツ公園として整備を推進するとともに、地域防災拠点に位置づけた防災公園としても整備します。 ・老朽化が進む下米田保育園の整備など子育て環境の充実に向けて施設整備を検討します。
協働の取組	・自然を活かした教育のあり方について検討します。（さくらの森の活用、農業体験等を通じた子育て等）
市民主体の取組	・「まちじゅうで子育て」の意識を持って子育てに取り組みます。

③安全・安心な環境整備

- 誰もが安全・安心に暮らすことができる環境整備に取り組みます。

行政主体の取組	・牧野ふれあい広場については、本市のスポーツ拠点にふさわしい市民に親しまれるスポーツ公園として整備を推進するとともに、地域防災拠点に位置づけた防災公園としても整備します。 ・歩道の幅員確保など道路環境の改善を検討します。（通学路の安全対策等）
協働の取組	・地域住民が互いに助け合う仕組みを構築しながら地域全体の防災力の向上に向けた取組を検討します。（地区防災計画の作成等）
市民主体の取組	・市民一人ひとりが防災訓練に参加し、防災意識を高めます。

④地域で働く環境づくり

- 地域の人々が便利で働くことのできる環境（職住近接）づくりに取り組みます。

行政主体の取組	・住環境と調和した操業環境の維持を図ります。 ・周辺環境に配慮した工業系の土地利用の誘導を図ります。
協働の取組	・企業と住民の共存のあり方（イベントの実施や防災協定の締結等）をともに検討します。 ・農業環境の保全と農業振興を推進します。
市民主体の取組	・企業や行政の雇用環境づくりに協力します。

⑤多様な仲間が集まる環境づくり

- 高齢者から子育て世帯、子どもまで多世代間での交流を育み、地域で見守りや子育てができる環境づくりに取り組みます。

行政主体の取組	・多世代間で交流を育むことができる場づくりについて検討します。（空地や空家の活用等）
協働の取組	・空地等を活用して誰でも気軽に利用できる場づくりを検討します。
市民主体の取組	・外国人を地域に受け入れる体制づくりを検討します。

図48 下米田地域の方針図



1 協働のまちづくりの推進

① 市民・事業者・市の役割

協働のまちづくりを推進するにあたっては、市民、事業者、市がそれぞれの立場からできることを考え、お互いに役割分担、連携を図りながらまちづくりに取り組むことが必要です。

また、在住外国人が多い本市の特徴を鑑み、在住外国人も暮らしやすく、地域活動等への参画を促すようなまちづくりに取り組むことも必要です。

■ 市民

- 相互の協力と理解により、地域の特性を活かした地域まちづくりに主体的に取り組むよう努めます。
- 市が行うまちづくりに関する施策に協力します。

■ 事業者

- 地域社会の一員として自覚と責任を持ちつつ、市民による地域まちづくりを尊重するとともに、周辺環境に配慮したまちづくりへの協力に努めます。
- 市が行うまちづくりに関する施策に協力します。

■ 市

- 本マスタープランに掲げるまちづくりの目標を実現するため、必要な施策・取組を推進します。
- 施策・取組の推進においては、市民の意見を十分に汲み、反映するよう努めます。
- 地域まちづくりを支援し、その推進に協力します。

② 地域主体のまちづくりの推進

本市では、2009年（平成21年）からまちづくり協議会による地域主体のまちづくり活動が動き出しています。本マスタープランの地域別構想では、今後の地域主体のまちづくりを見据えた「協働の取組」や「市民主体の取組」を記載しており、地域まちづくりを推進していくうえでの道しるべとなる役割も期待しているところです。

市としても、まちづくり協議会が主体的にまちづくりに取り組んでいただけるよう、まちづくりに関する情報提供や参加機会の提供など必要な支援を行っていきます。

また、まちづくり協議会の互いの取組や情報の交流等を通して、横のつながりも意識した地域づくりにつながるよう支援を行っていきます。

2 計画の進行管理

本計画の実現に向け、「Plan（計画）」「Do（実施）」「Check（評価）」「Action（改善）」のPDCAサイクルの考え方に基づいて、おおむね5年ごとに本計画の目標及び重点施策の事業について進行管理を行います。

また、本計画については、おおむね20年後の都市の姿を展望しつつ、10年後に計画の見直しを行う動的な計画として運用します。人口動向や社会情勢の大きな変化などを踏まえ、必要に応じて本計画の見直しを行います。

図49 計画推進（PDCAサイクルのイメージ）



3 重点施策・事業の推進

まちづくりの重点戦略を受けて、今後10年間で重点的に取り組むべき施策・事業及び実施目標は、以下のとおりです。

重点戦略1 まちなかのリニューアル！			
事項	取組概要	施策・事業（例示）	実施目標
既成市街地の再整備・更新	老朽化が進む既成市街地において、市街地再開発事業等の検討や公共施設の整備（道路、公園等）、commons協定の活用に向けた検討を進める。	・美濃太田駅南地区における市街地再開発事業と関連する公共施設の整備	令和10年度
		・ウォークアブルな空間整備（逍遙プロムナード、大手町公園の整備等） ・空家・空店舗の活用によるにぎわいづくり	令和10年度
美濃太田駅周辺の顔づくり	本市の玄関口である美濃太田駅周辺のおもてなし空間としての整備や空間形成を進める。	・玄関口にふさわしい顔となる空間形成の推進（観光・交流機能の充実、良好な景観形成、駅前広場・駐輪場の整備、美濃太田駅自由通路等）	令和10年度

重点戦略2 学びと出会いをクリエイト！			
事項	取組概要	施策・事業（例示）	実施目標
文教交流拠点にふさわしい拠点性の充実・強化	文教交流拠点の充実・強化を図るため、ニーズに対応した適切な都市機能の導入を進める。	・古井保育園の整備	令和5年度
		・古井第一保育園の跡地活用の検討（発達総合支援センターの整備の検討）	令和10年度

重点戦略3 便利さと田園風景のコラボレーション！			
事項	取組概要	施策・事業（例示）	実施目標
地域生活拠点にふさわしい空間形成	田園都市ゾーンにふさわしい空間を享受することができるまちづくり方策を検討する。	・田園都市ゾーンにふさわしい土地利用の誘導方策の検討 ・道路・公園配置計画作成 ・地域地区計画の検討	令和10年度

重点戦略4 健康・にぎわい・ウォーカブル!			
事項	取組概要	施策・事業(例示)	実施目標
医療拠点にふさわしい医療、子育て・健康増進機能の充実・強化、それを活かしたまちなかへの波及	中部国際医療センターの整備を契機とした医療・子育て支援・健康増進機能の誘導を図る。	- 中部国際医療センター開設 - 保健センター・子育て世代包括支援センター等の整備	令和5年度
	医療拠点の整備を契機とし、歩いて楽しめる空間や観光・交流に資するネットワークの形成を図る。	- まちなかの公園や歩行者環境の整備 - 観光・交流ネットワークの形成	令和10年度

重点戦略5 企業立地をプロモーション!			
事項	取組概要	施策・事業(例示)	実施目標
高い企業の進出意向への対応	新たなニーズに対応した産業用地の区域の確保を進める。	- 特定用途制限地域の建物用途の見直し - 新産業用地の区域の確保 - 企業誘致の推進	令和10年度